

女積桑野七十五期、老後の生き方を真剣に問いかける豆新聞 訃報は同期生のみを送付することといたしました。

安七五期

葉書きの同級会

<p>小林良行 三月十八日死去。 「どなたに連絡しましょうか」 との私の問い掛けに妻恵子は 昨年十月の中学同期会の集合 写真と高校の仲間内の写真を 見せ、「これをお願いします」 と言われ、どのように誰に連絡 しようかと戸惑った。さびし い葬儀で私は自分のネットワ ーク不足を恥じた。佐久間惣一 の時は退職通知予定が葬儀通 知となって盛大だったのとお まりにも落差があったからな お更だった。三月二二日、渡 部航志郎 が盛岡から線香を 上げにきた。その後の恵子夫人</p>	<p>に会いたいとも思い私も小林 宅に同行した。小林は家族に 厳しくプライドが高く弱みを 絶対に見せない。病気でも痩せ 細った体を家族にすら見せた がらなかったと言つ。今考える とその我慢が病状の発見の遅 れになったと思つ。私と航志郎 は同級生の間で見せる態度と のあまりの違いに驚き、彼が仲 間で見せる、はしゃぐ割り込 む得意になる自己チューな面 を話した。恵子はごく普通の人 間的な一面を知って安心した。 逆に私たちは彼が家族だけに しか見せない厳格な家長ぶり を知り改めて驚いた。小林は 四年前郡山に戻り、最後の勤務 先が郡山地域テクノポリス推 進機構だった。その職場の上司</p>	<p>に昨年十一月小林の体の不調 を私は聞かされた。年明け病 院を訪問。末期の胃癌である事 を知った。二月四日七五期同期 会の日。渡部航志郎、熊田喜貞 国分洋が病室を訪問。彼は訪問 を喜び起き上がった。話が弾ん だ。小林が見せるしぐさに妻恵 子はすごく驚いたと言つ。それ は決して家族には見せた事が ない表情だったから。彼は辛 そう表情を見せず最後の最 後まで、職場復帰を考えつつ、 あの世に行った。私には万が一 の時の連絡先をしつかり聞い ておいて頂ければもつと盛大 に送り出して上げる事が出来 たのにとの思いが有ったが妻 恵子にしてみれば決して甘え ない夫の頑張りに最後まで何</p>	<p>も聞けない状況だったのであ った。小林夫人に会って触葬 され佐久間惣一妻秀子に電話 したら、その電話を待つていた 様に会いに来た。「夢に出てく る惣一は何故か顔は見えませ ん。私が悲しめば惣一も悲し む、喜べば惣一も喜ぶ。そう考 え、悲しむのを止めよう。私の 心の中に生きているんだから。 そう悟った時から不思議にも 夢の中で惣ちゃんの顔がはっ きり見えるように変わったので す」さらに「家の中では声を出 して本を読んで聞かせていま す」「惣ちゃん、私は良い思い 出ばかりです」と言った。私は 死んだ亭主ののろけ話をしつ かり受け止め、世の未亡人は皆 元気な人ばかり」と返事した。</p>
---	--	--	---

無責任編集 敬称略御容赦 郡山市熱海町熱海四の二九 村田英男 連絡はFAX024-984-2131 murata@naf.co.jp